

2026年度（4月入学）

佐賀大学大学院入学試験問題

地域デザイン研究科（第3次）

芸術デザインコース

科目名： 博物館学

解答上の注意事項

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 「解答始め」の合図があったら、全ての解答紙の所定欄に受験番号を記入すること。
- 3 問題の解答は、別に指示がある場合を除き、所定の解答欄に記入すること。
- 4 「下書き用紙」がある場合は、「解答紙」とともに「下書き用紙」も回収する。ただし、「下書き用紙」に記入した内容は採点の対象とはしない。
- 5 その他、監督者の指示に従うこと。

地域デザイン研究科 試験問題

下記の課題文を読んで、「保存」と「展示」の物理的・経済的な相関性が、博物館の持続可能性や公共性にどのような影響を与えるかについて、できるだけ具体的な事例や概念を交えて、日本語 600 字程度で論じてください。

なお、その際、博物館が社会的に果たす役割や外部からの芸術支援との関係にも必要に応じて触れてよいこととします。

[課題文]

政府、企業、個人、さらには国際資本による多様な芸術支援は、現代の芸術創作や教育・普及活動、市場システムの形成を支えてきた。こうした支援は芸術活動の持続可能性を高める一方で、資本や制度の論理が強く作用することにより、創作や表現の独立性が制約されたり、特定の分野や作家に資源が集中したりするなど、公益性との関係が問題となる場合もある。

博物館（歴史系博物館および美術館を含む）は、芸術支援の受け手であると同時に、資料や作品の保存と展示を通じて、芸術や文化を社会に媒介する役割を担っている。保存は文化資源を将来に継承する基盤であり、展示はそれらを社会に開き、意味づける行為であるが、限られた人的・財政的資源のもとでは、両者の優先順位をめぐる判断が常に求められる。

近年、博物館は教育や観光、地域産業と結びつく社会的存在として位置づけられ、その活動には来館者の増加や社会的評価も意識されるようになってきている。また、芸術支援は財政的援助に限られず、評価や認証、ネットワーク形成など多様な形で博物館や芸術活動を支えている。しかし、こうした支援のあり方は、博物館や芸術の公共性や自律性とどのように関係づけられるべきかという課題を同時に孕んでいる。